

【取材内容】

店主の大和田悠樹さんに取材させていただきました。

Q1. 古書店を開いたきっかけは何ですか。

A. もともと古書店に勤めていた経験があり、その流れで始めました。

Q2. 選書の際にどのような点をこだわっていますか。

A. 最初からこの年代を集めたいというのではなく、自然に集まってきた本の中からお店に置きたくない本を省き、残った本を置いています。60年代などの古い本は面白いので、あると良いとは思いますが、置きたくないものを省いた結果の品揃えとなっています。

Q3. 選書というより、売りにきた本から選んでいくということでしょうか。

A. 古本や古書店では一冊一冊を選ぶというより、入ってきた本を置くか置かないかで選んでいます。

Q4. 置くか置かないかの基準はどのようなものですか。

A. 売れないと分かるものもあります。好みでなかったり、置きたくないものは省いています。(東塔堂より) dessin では、割と感覚的に選んでいます。

Q5. 本はどこから仕入れていますか。

A. お客さんから売ってもらっています。品揃えを見て、似たような本を持っている人が売ってくれています。「本が本を呼ぶ」というように、似た本が寄ってくる傾向があります。渋谷の東塔堂で本を仕入れることが多いです。渋谷で売ってもらった本をそれぞれのお店に分けています。

Q6. 外国のお客さんが多い印象を受けましたが、どのようなお客さんが多いですか。

A. 外国の方、多いです。中日黒に住んでいる方がよく通る道に店舗があるため、通勤中の方や、美術関係(デザインや建築、絵を描いてる方など)のお仕事をされている方も多くいらっしゃいます。

Q7. よく売れている本は美術系の本ですか。

A. そのような質問をよく受けますが基本的に1点物なので、この本がよく売れるというはあまりありません。2階でイベントをやった際に、その関連の本がよく売れるということがあります。お店で絵の本を集めているので、ほとんどが美術系の本となっています。